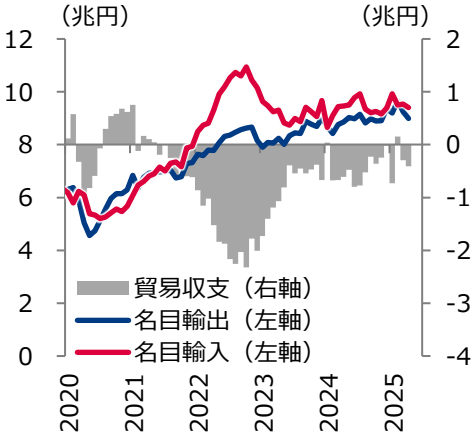
日本

貿易統計（2025年4月）

実質輸出は増勢を維持、トランプ関税の悪影響は今後本格化

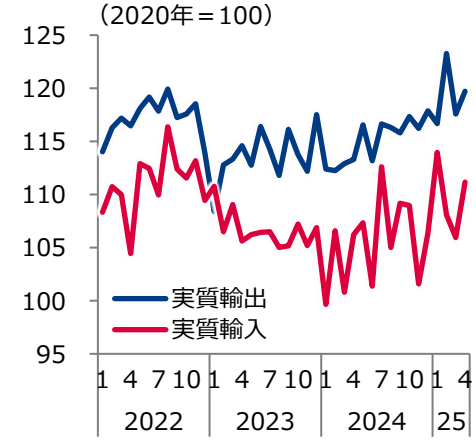
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



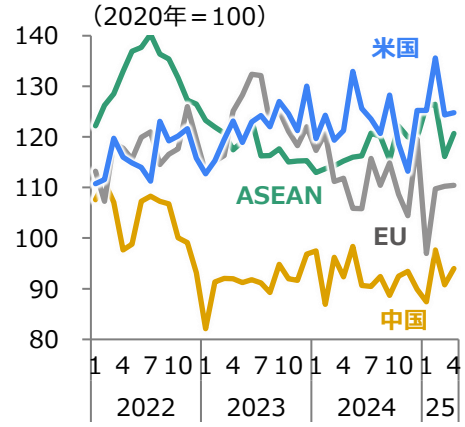
注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」を基に三菱総合研究所作成

2 実質輸出入



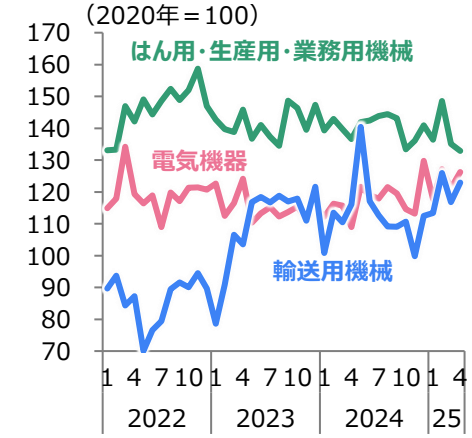
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

3 実質輸出（地域別）



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

4 米国向け実質輸出（品目別）



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年4月の貿易収支（季調値）は、▲4,089億円の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比▲2.7%）、名目輸入（同▲1.4%）がともに減少する中、名目輸出の減少幅の方が大きく、貿易赤字幅は拡大した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比+1.8%と2カ月ぶりに増加した（図表2）。実質輸入も、同+4.9%と3カ月ぶりに増加した。
- 実質輸出について地域別にみると、中国向け（前月比+3.5%）、ASEAN向け（同+2.8%）が増加を主導した（図表3）。
- 関税による影響が注目されていた米国向け実質輸出は、前月比+0.4%と小動きにとどまった。関税本格化前の駆け込み輸出の反動で3月に減少した後も、底堅い水準を維持している。品目別にみても、相対的に高い関税率が課された輸送用機械（自動車など）は前月比で増加した（図表4）。この背景として、①自動車部品関税の発効（5月3日）前の駆け込み輸出、②自動車値上げ前の米国消費者の駆け込み需要への対応、など一時的要因がプラスに作用した可能性がある。

基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、円高・原油安の影響で縮小傾向にある。先行きについて、日米金利差縮小に伴う緩やかな円高を想定しており、貿易赤字は縮小方向で推移すると見込む。
- 先行きの実質輸出について、トランプ関税の影響で世界経済が減速することから、停滞局面に向かうとみる。当社は、トランプ関税により短期的に世界GDPは▲1.0%、米国GDPは▲1.8%下押しされると試算しており（関税の前提など詳細は、5月19日公表の世界・日本経済の展望を参照）、米国向けを筆頭に関税による輸出への下押し影響は今後本格化するだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.